

宇都宮市立富士見小学校第4学年【国語】分類・区分別正

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.7	87.9	87.8
	書くこと	69.0	67.6	67.1
	読むこと	53.7	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.8	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	88.7	87.9	87.8
	書く能力	68.7	66.3	65.7
	読む能力	53.7	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	63.3	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

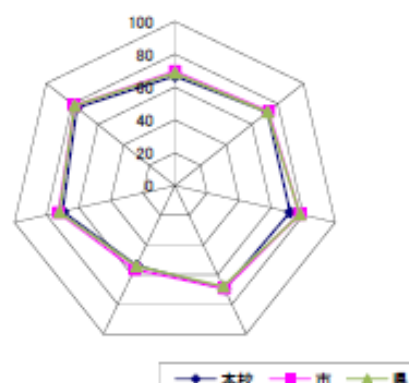
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○互いの考えの共通点や相違点を整理して聞いたり、話の中心に気を付けて聞いたりする問題の正答率は95%を超えており、正答率がかなり高い。 ●話し方の工夫に気を付けて聞く問題の正答率は72.5%で、県や市の正答率よりも低くなっている。	・国語の授業だけでなく、様々な場面で、話し手の意図を考えながら、集中して話が聞けるように指導していく。また、授業中や朝の会のスピーチなど、自分の意見や考えを発表する機会を積極的に取り入れ、聞き手に自分の意図をしっかりと伝えるには、どのような工夫が必要か考えながら話したり、聞いたりできるようにする。
書くこと	○招待する手紙を敬体で書くことの正答率は80.3%、来てくれるようお願いする言葉を書く問題の正答率は、72.5%といずれも高く、県や市の正答率を上回っている。 ●招待する手紙で、読み手に伝えたい事柄を正確に落とさずに書く問題は、正答率が50.9%低く、転記ミスや不十分な解答が少なからずみられた。	・日頃から、学校の行事に合わせて、お礼の手紙や招待状などを書く機会を多く設定し、書く目的や相手を意識した表現を考えさせたり、文章の形式に即して必要な情報を正確に書かせたりする指導を繰り返すようにする。
読むこと	○物語と説明文の内容を読み取る問題では、どちらかというと言文の内容を読み取る問題の正答率が高い。特に文と文のつながりに注意して読み取る問題の正答率は72.3%で県や市の正答率よりもやや高い。 ●図と話し合いの内容を関連付けた理解の問題の正答率が50%以下と正答率が低い。市や県の正答率と比べても5ポイント以上低くなっている。	・読書活動の充実を図り、文学的文章、説明的文章どちらにも多く触れる機会を持つようにする。また、文章を読む際には、書かれている内容を叙述をもとに注意深く読み取り、筆者の考えや書かれている情報を的確につかめるように、何度も繰り返し文章を読んだり、ポイントとなる言葉を見付けたり、自分の言葉で要点を整理し直したりできるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の問題では、3年の漢字の読みの正答率が高い。特に「急いで」の読みは99%と最も高くなっている。また、言葉の学習では、指示語の使い方の理解が高い。 ●送り仮名のある「定める」を書く問題の正答率は39.4%と低い。また、国語辞典の使い方問題の正答率は56.9%で、市や県の正答率よりも5ポイント以上低くなっている。	・漢字の読み書きについては、ドリルや家庭学習で、繰り返し練習し、基礎・基本の定着を図る。また、日頃から、文章を書く中で、積極的に既習の漢字を使うように指導していく。国語辞典の使い方については、授業で積極的に活用を図り、使い方に慣れるようにしていく。また、新しい言葉が出てきたときには、辞典で意味を調べることを奨励し、語彙を増やして使えるように指導していく。

宇都宮市立富士見小学校第4学年【算数】分類・区別正

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	#REF!	66.7	69.6	68.7
	#REF!	72.0	72.8	72.0
	#REF!	71.8	77.8	78.0
	#REF!	69.6	69.4	67.8
観点	#REF!	53.8	56.3	54.2
	#REF!	70.0	72.7	72.0
	#REF!	76.3	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

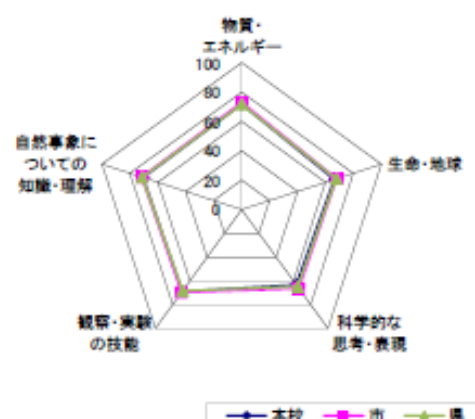
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○大問1(1)「たし算」：正答率88.1%である。3位数+3位数=4位数(繰り上がり2回)の計算である。 ●大問17「かけ算」：正答率34.9%である。()を用いて1つの式に表した3つの数の乗法について、式の意味を場面と結び付けた説明を選ぶ問題である。無回答率11.9パーセントであった。	・基本的な計算問題に関しては、習熟を図るために、朝の学習や自主学習において繰り返し計算問題を解く時間を取っていく。理解が不十分なところにおいては、授業等で取り上げ指導をしていく。また、式の指導では、具体的な場面を式に表す活動や式を通して場面などの意味を読み取る活動を重視する。その際、式と言葉、具体物、数直線や図などを相互に関連付け活動を意識して取り入れる。
量と測定	○大問10(1)「時刻と時間」：正答率89.0%である。時間の分と秒の単位の関係性の問題である。 ●大問19(1)「時刻と時間」：正答率32.1%である。電車とバスの乗車時間を求め比較する問題である。	・「時刻と時間」の基本的な関係性については理解しているが、文章問題の中で「時刻と時間」の関係性を考える問題に関しては課題が残っている。そこで、文章問題をじっくり読み、具体的な場面を図や線、文章などに表す活動を充実させていく。
図形	○大問12「円と球・三角形」：正答率82.6%である。円の直径の問題である。 ●大問13「円と球・三角形」：正答率56.0%である。球の半径と直径の問題である。	・「図形」の問題はおおむね良好であったが、球の半径と直径の関係の理解については、引き続き指導の改善が必要である。具体的な状況を理解できるように、図形の模型(特に、球では立体模型)などを見せながら指導していく。
数量関係	○大問6「□を使った式」：正答率82.6%である。□を使った文章問題(減法逆の加法の場面)を表した図を選ぶ問題である。 ●大問7「□を使った式」：正答率32.1%である。□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題である。	・問題解決の際に、見通しをもち、既習事項を基に筋道を立てて考える活動等の工夫をする。その際、解決した過程を振り返る活動を充実させることで、児童自信が算数の持つ系統性や客観性、可能性などのよさを実感できるような指導の工夫をしていく。

宇都宮市立富士見小学校第4学年【理科】分類・区分別正

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.8	73.1	71.8
	生命・地球	66.4	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	63.2	66.5	65.0
	観察・実験の技能	69.0	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	70.5	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「ものと重さ」: 正答率94.5%である。丸い形の粘土を細かく分けた粘土や、四角い形にした粘土にしても重さが変わらないことが分かる問題である。 ○「風やゴムのはたらき」: 正答率95.4%である。紙コップに風の強さを「強」「中」「弱」と変えて転がしたときの転がった距離は、風の強さによって物の動く様子にちがいが分かる問題である。 ●「磁石の性質」: 正答率54.1%である。印のない棒磁石を水に浮かべ、磁石の性質を利用してN極とS極をそれぞれ特定する問題である。	・理科の授業で、観察、実験などの具体的な体験を通して学習内容を理解させていくようにする。 ・知識の活用を図る観察、実験を意図的に多く設定していくことで、児童の主体的な問題解決活動を促し、実感を伴った理解を図るようにしていく。
生命・地球	○「昆虫と植物」: 正答率98.2%である。ヒマワリの花を選び、身の周りの植物の花の様子が分かる問題である。 ●「身近な自然の観察」: 正答率35.8%である。虫眼鏡を正しく使うことができるかを問う問題である。 ●「太陽と地面の様子」: 正答率35.8%である。地面に方位磁針を置いたとき、北の方位はどこかを選び、方位磁針を正しく使うことができるかを問う問題である。	・観察・実験器具を初めて使わせる際には、その目的と機能を明らかにした上で、視聴覚教材などを利用して分かりやすい説明を行うようにする。 ・他学年や他教科の学習において、虫眼鏡や方位磁針を使用する際には、繰り返し説明し操作する機会を増やすことで、正しい操作方法を習得させるようにする。